
はしがき

法学部に入って会社法の講義を通して勉強を始めた学部生が最も苦労するのは期末試験対策である。大学での会社法の講義は通常体系的な各制度の解説という形式をとるが、学期末、各学生は事例式問題を解かなければならない。通常の講義では、事例式問題の解き方までは先生は教えてくれない。本書を企画した動機は、日本の法学教育における体系的講義と、その最後に学生が突破しなければならない期末試験における事例式問題という矛盾に着目して、これを解決する新しいタイプの教科書をつくりたいということであった。

本書は、初めて会社法を学習する学部生等が、設問を解きながら、会社法の全体像を理解するという全く新しいコンセプトの教科書である。日本の会社法については、類書は存在しない。

本書では最初に数行で「設問」が示される。設問は事例問題を中心とし会社法の前提知識がない学部生でもその内容を理解できるような問題である。設問の中には説明問題も含まれているが、これも学部の期末試験で出題されると予想される問題を中心としている。設問でその項目について問題意識をもってもらい、その後続く一般的な説明を、読者は問題意識をもって一気に読み進めることができる。最後に設問の答えが提示される。本書はこのような「問題的思考」に立った、学生のための、新しい画期的な教科書である。読者の方々が本書で勉強したことがきっかけになって会社法がよくわかるようになり、会社法が得意な分野となれば、執筆者としても大変うれしく思う。

本書の説明は基本的には、判例・通説に沿ったスタンダードな叙述となっている。説明にあたっては、各執筆者は初学者である読み手の立場に立ちわかりやすい叙述を心がけた。本書で勉強すれば、学部生は期末試験を優秀な成績で突破でき、またロースクール志望者は、ロースクール入学試験に優秀な成績で合格できるであろう。また、本書は、公認会計士試験、公務員試験、法学検定

試験など各種資格試験にも対応している。これまで会社法を勉強したことがなかったロースクール未修者にとっても、司法試験へ向けた準備の第一歩の勉強を始める上で理想的な教科書である。また、すでに他のテキストで勉強を始めている学部生の方も、本書をサブテキストとして利用して頂ければ、期末試験対策としては万全なものとなるであろう。

本書は、会社法を専門に大学で教鞭をとる学者と会社法の実務に携わっている優秀な弁護士との共同作業の中から生まれた。我々は、2年近くかけて、研究会を何度も開き、お互いの原稿を批判的に読み合わせた。本書の内容については、読者は大いに信頼してほしい。

最後に本書の刊行に多大な御配慮を頂いた法律文化社編集部の舟木和久氏に、心から深く感謝する。

2015年12月吉日

執筆者を代表して

高橋英治